

# 道徳授業・研修会

H29. 7. 10

## 題材 6年「メールの返信」

### 1. 授業内容

- ・ 導入では、友達付き合いで気をつけていることを聞き、ワークシートの「はじめのあなた」に自分の意見を記入した。
- ・ 本時の資料を場面絵・センテンスカードを提示しながら読み語りをした。キーワードになるところは、強調して読んだ。
- ・ 主発問は「もし、あなたがユミなら、次の日学校でナナに対して何といたしますか」とし、発表させ、全員の意見を把握した。
- ・ 児童の意見を「ナナの気持ちを受け入れる」「ナナを突き放す・ナナに怒る」に分け、板書もそれらが分かりやすいように分けて書いた。
- ・ 心のメーターを示し、どの辺りの気持ちかを聞くことにより、互いの気持ちが視覚的に分かるようにした。
- ・ それぞれの意見について、繰り返し発問で、道徳的価値を深めた。
  - 「受け入れる」・・・「ルールを知っていたのに、ごめんねって言うのかな」
  - 「どうして謝らなくてはいけないの」
  - 「謝ったら関係をもとに戻すことができるのかな」
  - 「他に方法はないのかな」
  - 「突き放す・怒る」・・・「どうしても聞きたかったのに、返信が来なかったらどうかな」
  - 「ナナが100%悪いのかな」
  - 「友達をやめたいのかな」
- ・ 話し合いから、相手のことも考えて、互いが納得できるような解決策を考えた。
  - 「ルールを決めよう」「大事なことは学校で話そう」
- ・ 今日の話し合いから、友達のことでも今後どんなことに気をつけていけばよいかを考え、ワークシートの「授業のおわりのあなた」に記入し、発表した。
  - 児童の意見・・・相手のことを考えて、友だち付き合いをする。
  - 一方的に気持ちを押しつけないで、何かあれば2人で話し合う。
  - 何かあれば、怒るのではなく、まず相手の状況や気持ちを聞く。



### 〈活動2 意見発表〉

### 2. 授業者の反省より

- ・ 本時の内容にスムーズに入ることができた。
- ・ 活動2では、「突き放す」意見が多かった。この意見に対して揺さぶりをかけたが、かけ方が弱かった。「友達関係がくずれてしまうよね」という言葉を投げかけてもよかった。
- ・ 心のメーターは、やり慣れてきている。教師は子どもの気持ちがよく分かり、子どもも自分の気持ちを振り返られる有効な手立てだと思うが、話し合いを通して動いたのか、いつも通り

なのかが分かりづらい。

- ・ 「おわりのあなた」では、友達への信頼よりも、ルールを守る方に気持ちが流れ、本来のねらいがぶれた。
- ・ 役割演技は、時間がなくなってしまい、できなかった。しかし、活動2での意見の発表は、やはり全員の意見を聞きたいので、時間配分が難しい。

### 3. 参加者より

#### 活動1について

- ・ 普段の友達付き合いについて考えることができた。
- ・ スムーズに本時の課題に入っていくことができた。
- ・ 発問を「何に気をつけていますか」か、「気をつけていることは何ですか」のどちらにするとよかったのだろうか。→本時のねらいに迫っていけそうな導入の仕方を考える。



〈ワークシート記入〉

#### 活動2の(1)～(4)について

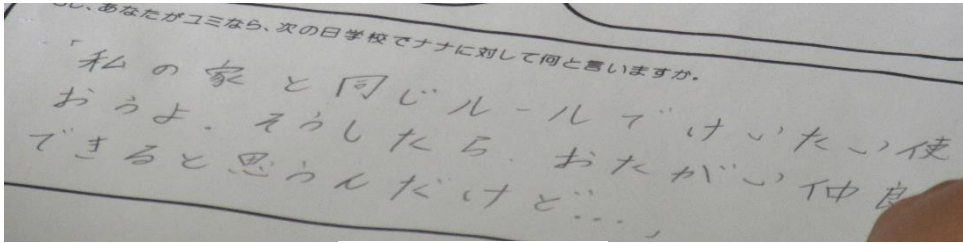
- ・ 受け入れと突き放しの意見をうまく分けていた。予想されていた児童の意見がたくさん出ていた。
- ・ 板書が視覚的にとても分かりやすかった。心のメーターも分かりやすかった。
- ・ 主発問は、課題に迫るよい発問だった。
- ・ 資料は自分事としてとらえやすい内容だったため、素直な意見がたくさん発表された。
- ・ 相手の気持ちを尊重することにつなげるための繰り返し発問(追い込み)があってもよかった。  
→ 繰り返し発問は、どこに児童の気持ちをもっていきたいかによって変わるため、教師の判断力が必要になる。事前研究の段階にいろいろな方向で考えておけるとよい。
- ・ 心のメーターは、分かりやすくてよいが、この先、ワンパターンになってしまい、児童に先を読まれてしまう心配はないか。→いつも同じパターンでなく、いろいろな方法で授業をすすめていきたい。

#### 活動2の(5)(6)

- ・ 具体的な解決策がたくさん出ていたのはよかった。
- ・ 話し合いを通して気持ちの変化が見られた。自分の気持ちだけを優先するのではなく、相手の気持ちも考えていくという方向にみんなの気持ちが変わった。繰り返し発問は有効だった。
- ・ 役割演技がなく、残念だった。→相手の気持ちを思いやる、相手のことを気遣うということが分かっているでも言葉でどう表現してよいか分からない児童もいると考えられるため、役割演技も必要だと考える。また、その活動のなかで、どんな声かけや言葉かけが一番よいのかについても考え、見つけていけるので、教師と児童、児童同士など、その教材で役割演技が有効だと考えられる場合は、取り入れていきたい。
- ・ 心のメーターが変わった児童になぜ変わったかを考えさせ、発表できるとクラス全体で価値が深められたと思う。→自分の気持ちが変わったことが分かるよう、心のメーターもワークシートに載せてもよい。

#### 活動3について

- ・ 「授業の終わりのあなた」では、すぐに記入することができ、この授業で何かを得ることができた児童が多いことが伝わってきた。



〈ワークシート〉

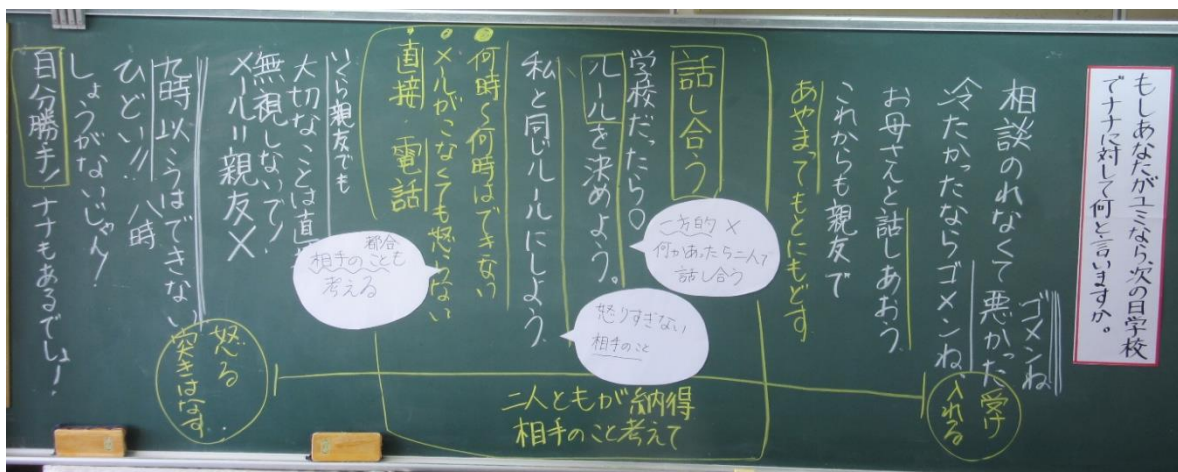
- ・ 自分事として考えた時に、子どもが発表した言葉でまとめたのがよかった。
- ・ 先生と児童の信頼関係が垣間見られる授業だった。
- ・ まとめの時間が少なく、自分の日々の生活を深く考える時間があるとよかった。→1 時間完了の授業だけでなく、2 時間完了の授業案も考えていく必要がある。
- ・ 初めと終わりで、意見が変わらなかった児童についても、よりよい問題解決ができるような支援ができるとうい。→普段の生活場面で見られる問題であれば、そういった場面で取り上げて道徳の授業だけで終わらないようにしていく。
- ・ 「思いは見えないけれど、思いやりは見える」を子どもたちにどう伝え、どう行動できるようにするかが大切。→自分事としてとらえ、実践しようとする気持ち、実践する態度を育てるために、今後もねらいを明確にした道徳の授業実践をしていく。

4. ご指導：公益財団法人 モラロジー研究所 佐野 富彦先生

- ・ 道徳の授業では、ねらいの設定が重要である。目の前の子どもたちに合ったねらいを設定する必要がある。
- ・ 本時については、問題解決にはどうしたらよいかをみんなで話し合い、自分たちで確認し合う方法がとられていた。こちらからの押しつけではなく、子どもたちから出てきた意見でまとめたり、心のメーターでそれぞれが自分の気持ちを表したりするなど、工夫された実践だった。
- ・ 教師と児童との信頼関係が築かれているかどうかで授業が決まる。6年2組は、しっかりと信頼関係が築かれている様子が伺え、道徳の授業が今後児童の生活に生かされていくと感じた。
- ・ 道徳の実践項目は、どれも心遣いで行いである。授業が今後日常生活にどう生かされていくかについては、成果を焦ってはいけない。なかなか実践はできないけれど、何かをしようとする姿勢を大切にしていくことで、後に実践につながり、それが児童の成長につながっていくと考える。

5. 今後に向けて

- (1) 板書・・・意見のまとめ方を考えて、視覚的に分かりやすくしていく。
- (2) 役割演技・・・その場で自分事と考えるには、やはりやってみる必要がある。思いがうまく言葉にできない児童にとっても、場面を設定し、実際に言葉にしてみることで、日常生活にその活動が生きていくと考える。
- (3) 教材開発・・・今年度の目標の1つに、高められた価値観をどう日頃の実践力につなげられるかということがある。そういった視点で、どんな教材を選び、どんなタイミングで実践し、どうその後の生活や行事につなげていくかを考えて、これからの研究計画を見直してい



〈板書〉

7月5日 水曜日 直日  
\*山内 祥  
\*室内 健児

花だんどうはん



お父さん  
お母さん  
おとうと



つぎの日

家を出て30分  
あつりに  
だまりをしました

とつしたの

花に水をやるのを  
わすれてきたの

一日くらい水をやら  
なくてもだいじょう  
ぶだよ

かたはら  
かわりようだよ  
日からはまたあまてきた

何にこまっているの(しょう)

花がかれたらどうしよう  
で、草がえいようをてているかも  
花がかれたらかわいそう  
かたはらたうばになら  
手伝ってくれたんかかなしむかな  
今年だけ花がないのはさびしい

ちんどうとけはよかた  
ちんどうとけはよかた  
動物園に行く前にやとけはよかた  
やらなかつたうましくよくまよ  
花だてて生きてる水やりしないため  
花がかれたら  
自分も食べないとしんてしまつ

花を大切にしたい  
花と人はちがう  
水をもらえるところらしい

としす  
あひはとしす  
どんな言葉をかけてあげますが  
元気つけたい  
やさしい 笑えゆる  
花を大切に  
明るい  
おなたからで



心強い  
明るい  
おなたからで